

靴の歴史散歩 ⑥8

皮革産業資料館 常任委員 稲川 實

明治32年（1899年）の『製靴図集』初版も、明治34年（1901年）の再版も、内容は変わらないと思うが、初版の方には、会員名簿が収録されていたようである。

靴産業の関係資料で、製靴図集について記述があるのは、『西村勝三の生涯』（西村翁伝記編纂会、昭和43年発行）と『靴産業百年史』（日本靴連盟、昭和46年発行）の二冊だが、編者はどちらも靴商工新聞の佐藤栄孝社主である。文中、製靴図集の写真も紹介されているが、表紙題字に「東京靴工倶楽部」とあるから、これは明らかに初版本である。

一体、どこにあったものを撮影したのか、提供者明記がないので、現在のところは所在不明である。これはこれで、新しい出会いを楽しみに待ちたいと思っている。

さて本題に戻して、製靴図集を開くと巻頭に「大日本本業創始者」とあって、終身会長である西村勝三の64歳時の肖像写真が掲載されている。（写真1参照）そして目次は、右記の通りである。

製靴図集 目次

1 西村勝三君ノ事蹟	10頁
1 靴ノ起源オヨビ沿革	23頁
1 靴ノ履用ニ因リ発スル病患ノ種類 ナラビニソノ治療法	10頁
1 ロッセリー氏研究ノ古代製靴ノ図	1頁
1 寸法ノ取り方	1頁
1 靴ノ図 男靴（写真2参照）	12頁
夫人靴（写真3参照）	2頁
小児靴	1頁
1 靴先飾り紙形	1頁
1 靴先形	1頁
1 男靴踵雛形	1頁
1 女靴踵雛形	1頁
1 脚胖ノ図	1頁

付録 東京靴工同盟会ノ趣旨ト目的

70余頁の項目は、以上の通りだが、特筆すべきは「靴に起因する足の疾患と、その治療法」というアメリカの医学論文まで翻訳掲載していることである。

海外情報を形で追うだけでなく、靴づくりの心まで学ぶという、同盟会の編集姿勢が読みとれ感動する。

この一冊で、靴工同盟会がたんなる親睦団体ではなく、会員の質的向上を目指した、研鑽集団であったことが、検証できるのではないだろうか。



写真1

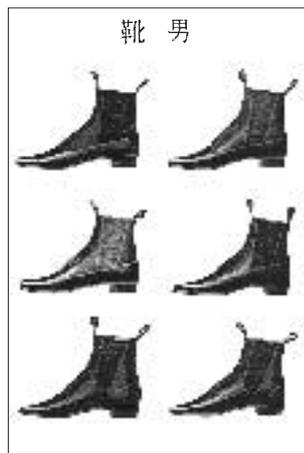


写真2



写真3